

トップ	くらし・教育	観光・文化	産業・労働	行政・まちづくり	安心・安全
-----	--------	-------	-------	----------	-------

ゼロ・ウェイスト政策

[TOP](#) > [ゼロ・ウェイスト政策](#) > [ごみ対策の変遷](#)

ごみの取り組み

[ゼロ・ウェイスト宣言](#)

[資源回収法律](#)

[処理計画](#)

[ごみ分別表](#)

[ごみ対策の変遷](#)

[収集と処理](#)

[ゼロ・ウェイストCM](#)

[推進基金条例](#)

広報誌より抜粋

[宣言から1年](#)

[ゼロ・ウェイストへの道](#)

[ゼロ・ウェイストへの道2](#)

[17年度セミナー](#)

ごみ対策の変遷

上勝町ごみ対策の変遷

年度	実施内容	ごみ処理
H 5	全戸を対象にゴミの排出量調査を実施	野焼き
H 6	上勝町リサイクルタウン計画を策定	
H 7	家庭用生ゴミ処理機購入補助開始(自己負担1万円)	
H 9	容器リサイクル対象品の分別収集スタート 2月:ガラス(無色・茶色・その他)、アルミ缶、スチール缶、飲料用紙パック 12月:段ボール、紙類	
H 10	小型焼却炉2基設置	22分別開始
H 13	1月:小型焼却炉閉鎖、35分別開始	35分別開始
H 14	7月:プラスチック製容器包装類の分別開始 それに伴いこれまでの「プラスチックボトル類」とプラスチック類を統合し、34分別に。	34分別開始
H 15	9月:ごみゼロ(ゼロ・ウェイスト)宣言を議会全会一致で可決	
H 17	NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー発足	

このページに関するお問い合わせ

上勝町産業課

電話番号:(0885)46-0111 メールアドレス:web-sangyou@kamikatsu.jp

| [個人情報の取り扱い](#) | [リンク](#) | [著作権](#) | [免責事項](#) | [お問い合わせ](#) | [RSSIについて](#) | Powered by Joruri



トップ	くらし・教育	観光・文化	産業・労働	行政・まちづくり	安心・安全
-----	--------	-------	-------	----------	-------

ゼロ・ウェイスト政策

[TOP](#) > [ゼロ・ウェイスト政策](#) > [収集と処理](#)

ごみの取り組み

[ゼロ・ウェイスト宣言](#)

[資源回収法律](#)

[処理計画](#)

[ごみ分別表](#)

[ごみ対策の変遷](#)

[収集と処理](#)

[ゼロ・ウェイストGM](#)

[推進基金条例](#)

広報誌より抜粋

[宣言から1年](#)

[ゼロ・ウェイストへの道](#)

[ゼロ・ウェイストへの道2](#)

[17年度セミナー](#)

収集と処理

ごみの収集先



ごみの収集・処理の流れ

種類		毎日	収集方法	サンプルサンプル	収集先	リサイクル品
ペットボトル	透明色つきキャップ	日比ヶ谷ゴミステーション	コンテナ	圧縮・保管	北九州	PETボトル再用品
発泡スチロール	白トレイ			広島県	スチロール原料	
乾電池 蛍光管 電球				日本通運 ↓ 北海道	水 銀 マンガン ニッケル	
缶 キャップ	アルミ スチール スプレー			徳島市	鉄 アルミ	
瓶 ガラス	茶 無色 その他			阿南市	カレット 再生ガラス	
古紙 古布				指定袋	徳島市 ↓ 愛媛県	段ボール中敷 ウエス

プラスチック類 容器包装	袋 チューブ ラップ		徳島市	RPF (燃料)	
燃やさなければ ならないもの	紙おしめ ナプキン 再生不可の紙		徳島市	焼却→埋め立て	
食 油			徳島市	肥 料	
家電製品 特定4品目			徳島市	リサイクル家電	
粗大ごみ	ライター ふとん 家 具 農機具 陶 器		徳島市	焼 却	
バッテリー	大 中 小		運搬業者 ↓ 徳島市	各種金属	
廃タイヤ			運搬業者 ↓ 徳島市	なまり 再生タイヤ	
割 箸			温泉 ↓ 阿南市	パルプ	
		ボ ト ル			
		料 金 徴 収 ・ そ の ま ま	その ま ま	徳島市	リサイクル家電
			圧 縮 ・ 保 管	徳島市	焼 却
			その ま ま	運搬業者 ↓ 徳島市	各種金属
			その ま ま	運搬業者 ↓ 徳島市	なまり 再生タイヤ
			その ま ま	温泉 ↓ 阿南市	パルプ

このページに関するお問い合わせ

上勝町産業課

電話番号: (0885) 46-0111 メールアドレス: web-sangvou@kamikatsu.jp

トップ	くらし・教育	観光・文化	産業・労働	行政・まちづくり	安心・安全
-----	--------	-------	-------	----------	-------

ゼロ・ウェイスト政策

[TOP](#) > [ゼロ・ウェイスト政策](#) > [ゼロ・ウェイスト宣言](#)

ごみの取り組み

- [ゼロ・ウェイスト宣言](#)
- [資源回収法律](#)
- [処理計画](#)
- [ごみ分別表](#)
- [ごみ対策の変遷](#)
- [収集と処理](#)
- [ゼロ・ウェイストCM](#)
- [推進基金条例](#)

広報誌より抜粋

- [宣言から1年](#)
- [ゼロ・ウェイストへの道](#)
- [ゼロ・ウェイストへの道2](#)
- [17年度セミナー](#)

ゼロ・ウェイスト宣言



未来の子どもたちにきれいな空気やおいしい水、豊かな大地を継承するため、2020年までに上勝町のごみをゼロにすることを決意し、上勝町ごみゼロ(ゼロ・ウェイスト)を宣言します。

- 1 地球を汚さない人づくりに努めます。
- 2 ごみの再利用・再資源化を進め、2020年までに焼却・埋め立て処分をなくす最善の努力をします。
- 3 地球環境をよくするため世界中に多くの仲間をつくります！

平成15年9月19日
徳島県勝浦郡上勝町

《前文》

上勝町は、平成9年廃棄物処理法の改正を受け、徳島県が策定した循環型廃棄物処理施設広域整備構想に基づき、県の指導のもと平成12年度小松島市と勝名5町村で、東部Iブロックごみ処理広域整備協議会を設立し、最先端の大型(日量100トン以上)ごみ焼却場の建設について、調査研究を継続しておりますが、設置場所や建設規模などにおいてその目処は全く立っていません。

今後において小松島市外5町村の広域ごみ焼却施設ができると仮定しても膨大な経費と管理運営費が必要となり、こうした施設の建設は、平成12年度に政府が策定した「循環型社会形成推進基本法」とは逆行するもので、しかも将来のごみの分別資源回収が進むと焼却量が減少し、この焼却施設の管理運営が成り立たなくなる事は明白であります。また、一般廃棄物最終処分場の建設については平成12年7月上勝町大字福原、通称陸行に3.36haの用地を確保しましたが、処分場建設には多額の経費と管理を要することから当分の間は建設を見送り、第2期松茂空港拡張工事周辺整備事業の徳島東部臨海最終処分に工事が進められています。この最終処分場は、徳島県と徳島市外16市町村が加入していますが、総事業費139億円、完成後の管理運営は、財団法人徳島県環境整備公社に委託し管理運営費は、県と関係市町村が処分量に応じて負担することになっています。

また、東部臨海最終処分場が順調に建設されて運営されたとしても、その使用期限が平成19年度から28年度までの10年間に限られており、それ以降はまた別の新たな最終処分場の建設が必要です。

国の政策は、廃棄物の発生抑制を第一とした「循環型社会」の形成を中心とした政策が現在も推進されており、基本法が公布された平成12年度でも、焼却炉や埋立地を中心とした廃棄物処理施設の建設・改修に約6,500億円が費やされており、その内約1,900億円が環境省の国庫補助で補われています。現在進められているごみ的高温(800℃以上)焼却、ガス化溶融炉、RDFによるごみ発電等は、世界中の多くの国が地球温暖化防止を定めた「京都議定書」にも反するものであり、早期にこうした方法は改めなければならないと考えています。

焼却炉をはじめとした施設建設、そしてそれらへの依存は、環境汚染・住民不安・自治体の財政圧迫などの深刻な問題を引き起こしております。その高額な施設は、廃棄物の発生を促すものであり、抑制にはつながりません。

さらに、現行の国の政策では、莫大な補助金を使う誤った誘導政策によって自治体に過度のごみ処理責任を課すものとなっております。そして、生産者である企業の負担は自治体の負担より少なく、自治体が再利用・再資源化によりごみの減量を推進しようとしても国の補助誘導政策により実施できていないのが実情であり、今後税金による負担は増し、私たちの健康や環境が犠牲になると予想されます。

私たちは、地球に残された貴重な資源を無駄にし、環境を汚染するごみ処理施設の建設のような処理対策を求めているのではなく、「製造や消費段階においてごみの発生を予防する政策」や「資源が循環する社会システムの構築」を求めています。そのためには、国が法律で拡大生産者責任を明確にし、製造から販売につながる逆ルートで製造業者が有価回収し、再利用、再資源化を進める仕組みを作る必要があります。それによって技術開発が進むとともに新しい仕組みが生まれ、21世紀の中頃には、日本が世界に貢献できる可能性を秘めています。

上勝町は、焼却処理を中心とした政策では次代に対応した循環型社会の形成は不可能であると考え、先人が築き上げてきた郷土「上勝町」を21世紀に生きる子孫に引き継ぎ、環境的、財政的なつげを残さない未来への選択をまさに今、決断すべきであると確信いたします。

ここに上勝町は、「21世紀持続可能な地域社会」を築くために幅広く上勝町住民、国、徳島県、生産者の協力を強く求め、2010年を目標としたオーストラリアのキャンベラ、カナダのトロント、また2020年を目標としたアメリカのサンフランシスコ、更にはニュージーランドにおける半数以上の自治体のように具体的な長期目標を掲げる「ゼロ・ウェイスト宣言」を採用し、2020年までに焼却・埋め立てに頼らないごみゼロをめざし、本日、別紙のとおり「上勝町ごみゼロ(ゼロ・ウェイスト)宣言」及び「上勝町ごみゼロ(ゼロ・ウェイスト)行動宣言」をいたします。

《上勝町ごみゼロ(ゼロ・ウェイスト)行動宣言》

- 上勝町は、焼却(ガス化溶融炉、RDF発電等も含む)、埋め立てが健康被害、資源損失、環境破壊、財政圧迫につながるものであることを認識し、焼却処理及び埋め立て処理を2020年までに全廃するよう努めます。その達成を確実なものとするため、上勝町自体がその責任を果たす努力を惜しまないことは勿論、国、徳島県、生産者にも最大限の努力を求めています。
- 上勝町は、地元で発生するごみの徹底的な発生抑制、分別・回収を指導し、2020年までにごみの発生率を最小にし、回収率を最大にできる上勝町にあった、ごみの発生を抑制するための教育システム、分別回収システムの構築をめざします。
 - 上勝町は、国及び徳島県に対し、同様にごみの発生を抑制するために期限付きの高い目標設定を求め、その目標にあった拡大生産者責任の徹底などの法律や条例の改正整備を早急に行うとともに、ごみの発生抑制、分別回収の徹底に役立つ制度の早期確立を求めています。上勝町は、あらゆる製品の生産企業に対し、2020年を目標にその製品の再利用、再資源化などの再処理経費を、商品に内部化して負担する制度の確立を求めます。これは同時に、2020年を目標にごみが発生しない、または分別回収、再利用、再資源化が容易な製品への切り替えを求めるものであります。また、2020年以降も安全かつ環境負荷の少ない方法で再利用、再資源化できない製品を製造する生産者に対しては、環境負荷にかかる経費を考慮し、それ相応の措置をとるよう求めています。
 - 上勝町は、日本国内の他の市区町村においても、上勝町と同様の目標を定め、相互ネットワーク構築による目標達成への協力体制が今後強まることを願い、積極的な情報交換を行ってまいります。
- 以上宣言します。

平成15年9月19日
徳島県勝浦郡上勝町

このページに関するお問い合わせ

上勝町産業課

電話番号:(0885)46-0111 メールアドレス:web-sangyou@kamikatsu.jp

| [個人情報の取り扱い](#) | [リンク](#) | [著作権](#) | [免責事項](#) | [お問い合わせ](#) | [RSSについて](#) | Powered by Joruri

